

寄贈図書リスト

UT Physics シリーズ3「一般相対論の世界を探る」,
柴田 大, A5判, 184頁, 2,400円+税, 東京大学
出版会
スペースガイド宇宙年鑑2007, (株)アストロア
ー・財団法人日本宇宙少年団編集, A4変形判,

130頁, 1,580円(税込み), (株)アスキー
太陽黒点の観測, 久保田 諄, 鈴木美好, 時政典孝,
B5判, 103頁, 1,000円, 兵庫県立西はりま天文台
公園友の会

書評をご執筆の方には, 上記の図書を差し上げます。
ご希望の方は toukou@geppou.asj.or.jp まで。

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致
します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお
申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

大阪大学大学院理学研究科教員

1. 教授 1名
2. 宇宙地球科学専攻
3. 宇宙の観測的・実験的研究
4. 可視光・赤外線・電波などによる観測的研究および関連装置の開発研究, またはアストロバイオロジーの実験的研究を行う方。新しい研究グループを立ち上げるとともに, 教育および大学運営に積極的に貢献できる方を求めます。
5. 決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有すること
7. (1) 履歴書 (外部資金, 研究プロジェクト, 学会活動を含む), (2) 研究業績リスト, (3) 主要論文5編以内のコピー, (4) これまでの研究内容 (A4で2頁以内), (5) 研究・教育に関する今後の計画と抱負 (A4で2頁以内), (6) 意見を聞ける方2名の連絡先
8. 平成19年6月29日 (金)
9. (1) 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-1

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻
専攻長 中嶋 悟

- (2) 同上 高原文郎

Tel: 06-6850-5481

e-mail: takahara@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp

当専攻のホームページは

<http://www.ess.sci.osaka-u.ac.jp/>

10. 「教授応募書類」と朱書き, 簡易書留または書留で送付のこと。

国立天文台野辺山宇宙電波観測所准教授

1. 准教授 1名
2. (1) 国立天文台野辺山宇宙電波観測所
(2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山
4. 野辺山宇宙電波観測所は, これからも45m電波望遠鏡やサブミリ波望遠鏡ASTEの共同利用を進めていきますが, ALMA時代に向け, 科学的な面での準備を強化して予定です。特に, 45m鏡を用いた大規模な観測プロジェクトを実施して電波天文学の研究を推進するとともに, 天文学コミュニティ, さらには人類社会の共通の財産となりうるデータを取得していく計画です。この観測プロジェクトを実施していくにあたって, 他のスタッフ等と連携・協力しつつ, 45m鏡を中軸にしながら観測天文学を強力に推進し, 科学面で主導的な役割を担うとともに, 45m鏡の観測装置の維持改良においても中軸となる方を求めます。
5. (1) 採用決定後できるだけ早い時期
(2) なし
6. 大学院博士課程修了, またはそれと同等以上の方

7. (1) 履歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し共著の場合は役割分担を記すこと), (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる方2名の氏名連絡先, または推薦書, (6) e-mail アドレス
8. 2007年6月7日(木) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台台長 観山正見
- (2) 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2 国立天文台野辺山宇宙電波観測所 所長 川辺良平
Tel: 0267-98-4400
e-mail: ryo.kawabe@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「国立天文台野辺山宇宙電波観測所准教授応募書類在中」と朱書し, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。
11. 選考は国立天文台運営会議においてなされます。

岩手大学教育学部教員

I 学校教育科

- 准教授 1名
- 教育制度・教育行財政
- および 4. [大学院] 教育制度特論, 教育制度特別演習, [学部] 教育法規, 教育行政, 教育学演習, 教育概論, 教育学研究法, 他
- 平成19年10月1日
- (1) 大学院修士課程を修了している者, 又はこれと同等以上の研究業績を有する者, (2) 大学院教育学研究科(修士課程)での教育・研究の指導ができる者, (3) 採用後は, 盛岡市又はその近郊に居住できる者, 年齢30歳以上
- (1) 履歴書(市販用紙を使用, 本人自筆, 写真貼付), (2) 研究業績目録(著書・論文・研究発表を年代順に記載し, それぞれに200字以内の概要を付すこと。単著, 共著の区別を明記し, 主要なものに○を付けること。A4判用紙, 形式自由, ワードプロ使用), (3) 研究業績のうち主要著書, 論文あわせて10編(コピーでも可), (4) 教育活動, 地域・社会貢献活動, 国際交流貢献活動等があればその活動歴, (5) 本学採用後の教育, 研究に対する抱負(1,000字以内, 書式自由)
- 平成19年6月29日(金) 必着
- (1) 〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-33
岩手大学教育学部長 宛
(2) 岩手大学教育学部社会科教育科 宇佐美公生
Tel: 019-621-6533
e-mail: usami@iwate-u.ac.jp
不在の場合は, 教育学部学部運営グループ
Tel: 019-621-6504 Fax: 019-621-6600
e-mail: esomu@iwate-u.ac.jp

II 社会科教育科

- 教授 1名
- 社会科教育
- および 4. [大学院] 社会科教育学特論, 社会科教育学特別演習, 他, [学部] 社会科概論, 社会科教育法(小), 中等社会科教育法, 他
- 平成19年10月1日
- (1) 大学院修士課程を修了している者, またはこれと同等以上の研究業績を有する者, (2) 大学院(修士課程)において, 講義, 演習および修士研究・修士論文の指導を担当できる者, (3) 採用後は, 盛岡市又はその近郊に居住できる者, 年齢40歳以上
- (1) 履歴書(市販用紙を使用, 本人自筆, 写真貼付), (2) 研究業績目録(著書, 学術論文, 学会発表等を年代順に記載し, それぞれに200字以内の概要を付すこと。A4判用紙, 形式自由, ワードプロ使用), (3) 研究業績のうち主要著書・論文あわせて10編(コピーでも可), (4) 教育活動, 地域・社会貢献活動, 国際交流貢献活動等があればその活動歴, (5) 本学採用後の教育, 研究に対する抱負(1,000字以内, 書式自由)
- 平成19年6月29日(金) 必着
- (1) 〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-33
岩手大学教育学部長 宛
(2) 岩手大学教育学部社会科教育科 宇佐美公生
Tel: 019-621-6533
e-mail: usami@iwate-u.ac.jp
不在の場合は, 教育学部学部運営グループ
Tel: 019-621-6504 Fax: 019-621-6600
e-mail: esomu@iwate-u.ac.jp
- 提出書類は「書留」とし, 封筒に「教員応募(社会科)書類在中」と朱書のこと

III 理科教育科

- 准教授 1名
- 理科教育(地学分野の講義も担当できることが望ましい)
- および 4. [大学院] 理科教育学特論, 理科教育学特別演習, [学部] 理科教育法(小), 理科教育法I(中学校理科の第2分野担当), 小学校理科A・B

- (小学校理科に関する実験科目, 分担担当), 地学分野の講義, 他に全学共通教育科目など
5. 平成 19 年 10 月 1 日
 6. (1) 大学院博士課程を修了した者, 又はこれと同等の研究業績を有する者, (2) 大学院(修士課程)において, 講義を担当できる者, (3) 小学校における理科教育の指導ができる者, (4) 採用後は, 盛岡市又はその近郊に居住できる者, 年齢不問
 7. (1) 履歴書(市販の用紙を使用, 本人自筆, 写真貼付), (2) 研究業績目録(A4判用紙に著書, 学術論文, 口頭発表, その他に分けて記入すること. 形式自由), (3) 研究業績のうち, 主要著書・論文 10 編(現物またはコピー), (4) 本学採用後の教育に対する抱負(1,000 字以内, 書式自由)
 8. 平成 19 年 6 月 29 日(金) 必着
 9. (1) 〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-33
岩手大学教育学部長 宛
(2) 岩手大学教育学部理科教育科 武井隆明
Tel: 019-621-6551 Fax: 019-621-6560
e-mail: ttakei@iwate-u.ac.jp
不在の場合は, 教育学部学術運営グループ
Tel: 019-621-6504 Fax: 019-621-6600
e-mail: esomu@iwate-u.ac.jp
 10. 提出書類は「書留」とし, 封筒に「教員応募(理科)書類在中」と朱書のこと

●ご注意願いたいこと等

- (1) 速やかに, かつ確実に連絡がとれるよう, 携帯電話番号, 電子メールアドレスがある場合は, 履歴書の「連絡先」欄に記入してください.
- (2) 選考にあたっては, 本学部において面接を行う場合があります. 面接を行う場合は, 改めて連絡をします. ただし, 面接に要する旅費等は支給できませんので予めご了承ください.
- (3) 提出書類は審査後, 返却します.
- (4) 応募書類に記載された個人情報採用者の選考および採用後の必要手続きに使用するものであり, 他の目的では使用しません.

鹿児島大学理学部物理科学科教員

1. 教授 1 名
2. 宇宙情報講座
3. 宇宙科学(人工衛星を利用した宇宙科学に関する研究をされる方が望ましい)
4. 宇宙科学, 物理学
なお, 着任後は共通(教養)教育, ならびに大学

- 院の教育にも携わっていただくことになります.
5. 平成 19 年 8 月 1 日(予定)
 6. 博士の学位を有する方. 着任時 55 歳以下の方が望ましい.
 7. (1) 履歴書(写真貼付), (2) 業績目録 1. 原著論文(査読付きとそうでないものを分けて下さい), 2. 国際シンポジウム等の Proceedings(査読付きの場合はその旨を記載して下さい), 3. 総説と著書, 4. その他(招待講演, 特許など)(業績 1-4 について, 主要なもの合わせて 10 点以内の別刷またはコピーを 1 部ずつ添付して下さい), (3) 過去 10 年間の外部資金の取得状況, (4) これまでの研究の概要 1,000 字程度, (5) 教育に対する抱負 1,000 字程度, (6) 研究に対する抱負 1,000 字程度, (7) 応募者に関して問い合わせのできる方, 2 名の氏名と連絡先(メールアドレスを含む).
 8. 平成 19 年 6 月 7 日(木)(必着)
 9. (1) 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35 鹿児島大学理学部物理科学科宇宙情報講座
教授選考委員会委員長 立野洋人
(2) Tel: 099-285-8087 Fax: 099-285-8088
e-mail: tateno@sci.kagoshima-u.ac.jp
 10. (1) 応募書類は, 封筒の表に, 「応募書類」と朱書きし, 郵送の場合は「簡易書留」でお送りください.
(2) 選考の過程で, 面接のために来学をお願いすることがあります. (3) 選考後応募書類一式は郵送により返却いたします.
 11. 物理科学科宇宙情報講座の教員構成(アイウエオ順)(平成 19 年 4 月 1 日現在)
宇宙情報講座 教授 立野洋人, 根建心具
准教授 亀野誠二, 中村昭洋,
西尾正則
助教 今井 裕
物性理論講座 准教授 秦 浩起, 藤井伸平
助教 橋爪健郎
固体物理講座 教授 廣井政彦
准教授 伊藤昌和, 永吉秀夫,
古川一男
助教 重田 出

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

**東京大学大学院理学系研究科・
地球惑星科学専攻教授**

1. 2006年6月（第99巻6号）
2. 平原聖文（立教大学理学部物理学科助教授）
3. 2007年9月1日

群馬県教育委員会観測普及研究員

1. 2006年12月（第99巻第12号）
2. 本田敏志（国立天文台研究員）
3. 2007年4月1日

国立天文台研究員

1. 2007年1号（第100巻1号）
2. 一般枠（五十音順）

浅野勝晃
板 由房
鍛冶澤 賢
瀬戸直樹
古屋 玲
真柄哲也
町田真美

プロジェクト枠（配属先順）

野辺山宇宙電波観測所 酒井 剛
野辺山太陽電波観測所 Meshalkina Natalia
岡山天体物理観測所 神戸栄治
天文シミュレーションプロジェクト 斎藤貴之
天文シミュレーションプロジェクト 塩田大幸
ALMA 推進室 奥田武志
ALMA 推進室 山田雅子
重力波プロジェクト推進室 佐藤修一
RISE 推進室 劉 慶会
スペース VLBI 推進室 永井 洋
JASMINE 検討室 菅沼正洋
天文データセンター 田中昌宏
天文データセンター 山田善彦
先端技術センター 日比康詞

3. 2007年4月1日

研究助成
**（財）井上科学振興財団、第24回井上學術賞・
研究奨励賞などの受賞候補者**

（財）井上科学振興財団（西川哲治理事長）は第24回（平成19年度）井上學術賞、研究奨励賞の受賞候補者の募集をしております。

第24回井上學術賞

1. 概要：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた50歳未満の研究者に対し、學術賞（賞状および金メダル、副賞200万円）を贈呈する。
2. 受賞件数：5件以内
3. 募集方法：指定の関係30学会、および財団の役員・評議員等からの推薦
4. 天文学会からの推薦件数：1件
5. 推薦締切日：平成19年8月20日（月）学会着
6. 申込用紙の必要な方は天文学会事務所か下記財団のホームページにあります。ほかに井上研究奨励賞、国際研究集会開催援助、国際研究集会出席旅費、外国人研究者招聘、井上フェロー、久保亮五記念賞（6月30日締切）などの募集も行っております。こちらは井上科学振興財団へ直接応募となっております。

◎照会先：財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15

南平台今井ビル601

ホームページ：<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

e-mail: inoue01@inoue-zaidan.or.jp

**2008年度（平成20年度）開催藤原セミナーの
募集について**
趣意

藤原科学財団は、科学技術の振興に寄与することを目的として、「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から、申請を受け、選考の結果採択を決定したものについて、セミナー開催に必要な経費を援助いたします。

1. 対象分野：自然科学の全分野
2. 応募資格：わが国の大学など学術研究機関に所属する常勤の研究者
3. 開催件数：2件
4. 開催費用援助額：1件につき12,000千円以内

5. セミナー対象期間：2008年1月1日～2008年12月31日
6. 申請受付期間：2007年4月1日(日)～同年7月31日(火)(必着)
7. 申請方法：「セミナー開催申請書」(1通)を所属機関長を経由して当財団に提出すること。尚、著名な参加予定者については、セミナーのテーマに関する主要論文(5名以内)1人につき1編、コピーで可)を添付のこと。
8. 申請書提出先・連絡先
〒104-0061 東京都中央区銀座3-7-12
財団法人藤原科学財団
Tel: 03-3561-7736 Fax: 03-3561-7860
藤原科学財団ホームページ：
<http://www.fujizai.or.jp>
(尚、ホームページにも開催申請書が掲載されております。)

日産科学振興財団 2007年(平成19年)度「理科/環境教育助成」の募集を開始

日産科学振興財団(理事長：カルロス・ゴーン)は、一昨年度より「教育」・「環境」・「自動車」にフォーカスした助成を行ってまいりました。その一環として、2007年度も昨年と同様に「理科/環境教育助成」の募集を行います。

ここでは「理科/環境教育助成」プログラムのみを記載いたしますが、学術研究助成については、弊財団のホームページをご参照下さい。

■理科/環境教育助成

将来を担う若い世代の科学と環境問題に関する興味と関心を高め、理解を促進することを目的として、理科教育、環境教育に関する助成を行います。

■応募要件

(1) 助成対象：主として高校生以下の生徒に科学・技術・環境問題の本質、モノづくり、自動車などに関する興味と関心を高め、それらの理解を促進することを目的とした下記課題による理科教育、環境教育。

- ①IT技術を活用した教育方法の開発と実施
- ②気象、自動車など身近な素材を活用した教材および教育方法の開発と実施
- ③博物館、動植物館、水族館等の公共施設と連携した教育方法の開発と実施
- ④科学研究者、技術者が教える教育方法の開発と実施
- ⑤イベントの開発・考案と実施

⑥その他上記例示以外の新しい試みの考案と実施
※活動には上記目的に適用何らかの実践活動(授業、イベント、出張授業等)を最低限1回は含めること。

- (2) 申請者の資格：小・中・高等学校の教員、大学・研究機関に所属する者(院生を含む)、企業の研究者(営利目的でないこと)、博物館・科学館関係者等
- (3) 採択件数と助成金額：採択予定：55件程度 1件あたり40万円
- (4) 助成期間：平成19年11月より1年間
ただし今回採択された助成者の中から、内容が優れた若干数の案件に限り、再応募・審査により、内容の普及を目的とした助成期間の延長と追加助成金の支給を行う予定です。
- (5) 応募期間：平成19年6月1日(金)～7月31日(火)
- (6) 応募方法：Web申請(当財団ホームページから申請書を送信)

■詳細は、弊財団ホームページの『教育助成申請』をご覧ください■

URL: <http://www.nissan-zaidan.or.jp>

財団法人日産科学振興財団

〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-9

Tel: 03-3543-5597 Fax: 03-3543-5598

問合せ先 nsf@nissan-zaidan.or.jp

第4回(平成19年度)「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦について

1. 趣旨

創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者の研究意欲を高め、研究の発展を支援していく趣旨で平成15年度より日本学術振興会賞として創設いたしました。詳細はホームページアドレスに記載されております。

2. 対象者

人文・社会科学および自然科学にわたる全分野で、平成19年4月1日現在45歳未満であり、博士の学位を取得、あるいは同程度以上の学術研究能力を有するもの。

3. 授賞

20件程度で賞状、賞牌、副賞として研究奨励金110万円を贈呈。

なお、日本学士院の協力を得て、日本学術振興会賞受賞者のうち5名以内に日本学士院学術奨励賞が併せて授与されます。

4. 受付期間

平成 19 年 6 月 4 日 (月)~6 日 (水) 必着

5. 提出先

〒102-8471 東京都千代田区一番町 6 番地
(住友 1 番町ビル)独立法人 日本学術振興会総務部研究者養成課
「日本学術振興会賞」担当

ホームページアドレス

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html>**研究会・集案案内****2007 年度日本日時計の会総会のご案内**

総会の日程

日 時: 2007 年 10 月 13 日 (土) 午後 12 時 30 分より

場 所: 明石市生涯学習センター (アスピア明石北館)

〒673-0086 兵庫県明石市東仲ノ町 6-1

Tel: 078-918-5600 Fax: 078-918-5618

問合せ:

〒630-8334 奈良市西新屋町 28 後藤晶男

Tel・Fax: 0742-26-5187

明石天文科学館 〒673-0877 兵庫県明石市人丸町
2-6 担当: 井上 毅

Tel: 078-919-5000 Fax: 078-919-6000

**国立天文台野辺山宇宙電波観測所
「電波天文観測実習」の参加者募集**

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、45 m 電波望遠鏡を使った「電波天文観測実習」を行います (総合研究大学院大学「夏の体験入学」)。当観測所は、45 m 望遠鏡・10 m ミリ波干渉計・10 m サブミリ波望遠鏡 (南米チリ) を用いて多数の星間分子の発見、原始惑星系ガス円盤の検出、銀河中心にある巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果を上げています。この「電波天文観測実習」は、天文学に関心を持つ大学生の皆さんに研究の最前線で活躍中の 45 m 望遠鏡を使った観測実習を通して、電波天文学の実際にふれていただくのがねらいです。参加者にはふだん研究者が行っている 45 m 望遠鏡の操作、データ取得・解析、結果のまとめをしていただきます。特に専門知識は必要ありませんが、大学で物理実験を経験していることが望ましいです。関心をお持ちの多くの方のご応募をお待ちしています。

開催日程: 2007 年 9 月 18 日 (火) 13 時 30 分~9 月 22

日 (土) 11 時 30 分 (4 泊 5 日)

場 所: 国立天文台野辺山宇宙電波観測所 (JR 小海線野辺山駅から徒歩 40 分)

定 員: 8 名程度

対 象: 大学の理科学部 (教育学部の理科学部も含む) に属する学生 (1~4 年生)

費 用: 旅費・滞在費は自己負担 (滞在費: 7,000 円程度)

応募方法: 住所、氏名、所属大学および学部・学科、学年、年齢、性別、電話番号、e-mail アドレス (持っている場合) を明記の上、以下の (1)~(4) に回答し、8 月 6 日 (月) 必着で下記の応募先まで送付。

(1) 大学で物理実験の経験がありますか?

(2) (1) で「はい」と回答された場合、一番印象に残った実験は何ですか? どのような点で印象に残ったのですか?

(3) あなたが持っている天文学への想い・イメージについて何でも結構ですのでお書き下さい。(600 字以内)

(4) 実習に参加希望の理由は何ですか? (600 字以内)

なお、送付された資料は返送いたしません。

選考結果の発表: 8 月 20 日郵便で発送

(*上記住所以外への発送を希望する場合は発送先を明記して下さい)

問い合わせ先・応募先:

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2

国立天文台野辺山宇宙電波観測所「観測実習係」

Tel: 0267-98-4333

ホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/misc/45school.html>

封筒に「観測実習応募書類在中」と朱書して下さい。

◇第 32 回光学シンポジウム

「光学システム・光学素子の設計、製作、評価を中心として」

主 催: 応用物理学会分科会日本光学会

協 賛: 日本天文学会ほか

日 時: 2007 年 7 月 5 日 (木), 6 日 (金)

場 所: 東京大学生産技術研究所 An 棟コンベンションホール (東京都目黒区駒場 4-6-1)

参加費: 日本光学会会員 3,000 円, 応物・協賛学協会会員・賛助会員 5,000 円, 非会員 (一般 7,000 円, 学生 1,000 円),

日本光学会学生会員 無料。早期参加申込 (郵便振替にて、割引有) もしくは当日現金払い。

招待講演（敬称略）：

- (1) 「プラズモニック・メタマテリアル」
田中拓男（理化学研究所）
- (2) 「スリムファンクション光学エンジンの投射光学系」
秋山和哉（日本ビクター）
- (3) 「波長走査レーザーを用いる干渉法とホログラフィへの応用」
石井行弘（東京理科大学）
- (4) 「携帯電話向けイメージセンサ市場・要求技術動向」
飯塚智明（東芝セミコンダクター社）
- (5) 「 μ リフレクタ方式光ディスク」
田部典宏（ソニー）
- (6) 「情報家電の光学技術」
石黒敬三（松下電器産業）
- (7) 「ランダム光渦場の位相特異点を用いた新センシング技術」
武田光夫（電気通信大学）

問合せ先：（株）リコー画像エンジン開発本部

光学 Md 開発室 板橋彰久

Tel: 046-292-5792 Fax: 046-231-9047

e-mail: optsympo32@kind.ocn.ne.jp

<http://annex.jsap.or.jp/OSJ/meet/symposium/>

32nd_sympo/index.shtml

京都大学 飛騨天文台一般公開のお知らせ

京都大学飛騨天文台では、来たる7月21日に一般公開を行います。施設の公開と天体観望会を行い、花山・飛騨天文台で現在行われている最先端の天文学研究を、わかりやすく説明します。運営管理上先着100名までの受け付けとなっておりますので、お早めにお申し込み下さい。

〈一般公開〉

日 時：2007年7月21日（土）13:00～20:30

場 所：岐阜県高山市上宝町蔵柱

京都大学大学院理学研究科附属飛騨天文台

公開施設と内容：

〈昼〉 ドームレス太陽望遠鏡，フレアモニター望遠鏡，および，太陽磁場活動望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望，花山天文台で観測された太陽像のリアルタイム上映。最先端の天文学研究解説。天文学に関する工作教室。

〈夜〉 65 cm 屈折望遠鏡，および小型望遠鏡による天体観望（月，木星など）

〈交通機関〉

公共交通機関がないので，JR 高山駅，または上宝支所までおいで下さい。自家用車でおいでの方は上宝支所の駐車場（無料）がご利用になれます。JR 高山駅と上宝支所からシャトルバス（JR 高山駅から往復大人 2,000 円，子供 1,000 円。上宝支所から往復大人 1,000 円，子供 500 円）を運行します。

〈申込方法〉

住所，氏名，電話連絡先，e-mail アドレスを書いて，往復はがき，または電子メール（e-mail）での事前申し込みを行って下さい。団体の場合は代表者の住所，氏名，電話連絡先のほかに，見学者の総数と各人の氏名も漏れなく記入して下さい。先着 100 名まで受け付けます。

締 切：6月29日（金）必着

〈宛先〉 〒506-1314 岐阜県高山市上宝町蔵柱

京都大学飛騨天文台

Tel: 0578-86-2311 Fax: 0578-86-2118

e-mail: infohida@kwasan.kyoto-u.ac.jp

〈花山・飛騨天文台のホームページ〉

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp>

〈主催〉 京都大学大学院理学研究科附属天文台，NPO

花山星空ネットワーク

〈後援〉 岐阜県高山市教育委員会

東邦大学理学部公開講座

「ミクロの物質とマクロの宇宙」

日 時：2007年7月7日（土）14:30～17:00

場 所：東邦大学習志野キャンパス

理学部 III 号館 5F ホール

内 容：

「宇宙のダークエネルギーとは何か」

須藤 靖氏（東京大学教授，東邦大学客員教授）

「単位はどのように決めるか-ミクロの世界と生活」

川畑有郷氏（学習院大学教授，東邦大学客員教授）

対 象：高校生～一般向け

費 用：無料。申し込み不要。

ホームページ：

<http://www.ph.sci.toho-u.ac.jp/event/ex-lecturer.html>

html

問合せ先：東邦大学習志野学事部入試広報課

Tel: 047-472-0666

e-mail: nyskou@sci.toho-u.ac.jp

第6回坂田・早川記念レクチャー講演者 推薦のお願い

名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻
「坂田・早川記念レクチャー」選考委員会

名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻は、同大学物理学教室創設以来、素粒子物理学と宇宙物理学の分野において日本の研究の発展に寄与し、多くの有為な人材を育ててきました。特に、素粒子の分野では、故 坂田昌一教授が開拓された、クォーク模型、ニュートリノ混合などの研究が現在の現象論の源流となり、宇宙の分野では、故 早川幸男教授が育てられたエックス線や赤外線などの多波長観測天文学によって、観測的宇宙論や星間物質の研究が大きく発展しています。

坂田・早川記念レクチャー制度は、両教授の業績をたたえつつ、次世代を担う研究者を育成することを目的として設けられました。記念講演者には、若者が物理の面白さを幅広い視点に立って理解し、その道に自らも挑戦したいと大志を抱く契機となる講演をお願いします。

今年も、2007年12月に第6回記念レクチャーを開催する予定です。今年は下記の要領で、宇宙の分野においてふさわしい講演者の推薦をお願いします。なお、推薦においては、候補者のお名前と簡単な推薦理由を添付してください。当委員会において講演者の選考を行います。

なお本記念レクチャーは名古屋大学大学院理学研究科・名古屋市科学館共催で、名古屋市科学館サイエンスホールにおいて開催されます。

これまでの講演者の方々

- 第1回(2002年度) 益川敏英氏(素粒子)
- 第2回(2003年度) 田中靖郎氏(宇宙)
- 第3回(2004年度) 戸塚洋二氏(素粒子)
- 第4回(2005年度) 杉本大一郎氏(宇宙)
- 第5回(2006年度) 西島和彦氏(素粒子)

推薦の受付締切: 2007年7月2日(月) 必着
推薦書送付先: 郵送, e-mail のいずれでも受け付けます。

〒464-8602 名古屋市中種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻
「坂田・早川記念レクチャー」選考委員会 福井康雄
e-mail: fukui@a.phys.nagoya-u.ac.jp

会務案内

【理事会議事録】

日時: 2007年3月28日 12:00~13:00

場所: 東海大学14号館1階会議室

出席者: 土佐, 柴橋, 國枝, 花岡, 高田, 北本, 田村, 堂谷, 和田, 中本, 渡部, 比田井, 高羽, 嶋作, 福田
その他, 東條事務長が出席した。

議事に先立ち、署名人を選出した。

議長: 土佐 誠

署名人: 花岡庸一郎, 高田唯史

報告

1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて高田庶務理事より前回(2007年1月13日)理事会議事録が報告され、原案どおり承認された。

2. 当年会について

中本年会理事より開催中の2007年度春季年会について口頭で説明があった。3月27日に東海大学で行われた記者発表には計9社よりの参加があり、発表内容は新聞のホームページや何紙かの紙面に載ったことが報告された。年会の講演数は630講演ほど、午前中に登録した参加者は350人ほどであることがあわせて報告された。

また、ある報道機関からクレームとして、発表当日のある新聞の夕刊にその内容の記事が掲載されたが、本来午後開催の記者発表の記事が当日の夕刊に間に合うはずはなく、報道業界のルールを逸脱しているとの指摘があったことが報告された。天文学会としてコントロールをして欲しい旨の要請であり、議論の結果、報道内容の解禁について、時刻を明確に書くべきであり、秋季年会からは新しいガイドラインで情報のリリースを行うことが了解された。

渡部天文教育理事より、記者発表で予定されていた「ひので」衛星に関する発表が急遽キャンセルになったことについて、国立天文台広報の立場からの説明と謝罪があった。NASAが「ひので」についてプレスリリースを行った3月21日にあわせて国内でも発表するようとの文科省からの強い指示であったため、今回は日程調整は不可能であり、天文学会としての発表は断念、リリースは国立天文台のホームページより行われたことが報告された。

3. その他

(1) 今後の年会の進捗について

2007年秋季年会について高羽年会開催地理事より口頭で説明があった。懇親会については大学生協と打ち合わせを行い、500名程度の参加は可能であることが確認されたこと、事前登録を行うことで人数の調整等は十分に可能であろうとの見通しが示された。懇親会費については一般4,500円、学生3,500円度を予定しているとのこと。また、9月26-27日に工学部で別の小さな学会があるとのことであるが、重複しても会場に大きな混乱はなさそうである旨も報告された。

秋季年会において行われる3学会共催セッションについて中本年会理事より報告があり、現在3学会間で内容や運営についての調整中である旨報告があった。講演者の参加費等については既に確認済みであることもあわせて報告された。他学会員である講演者については講演料等は天文学会正会員待遇とすることが示された。講演数は100件くらいと予想され、ポスター設置のスペースを確保することが難しいことから、全ての発表を口頭にする可能性があり、その場合は2セッションを並行して行う可能性もあることが示唆された。

2008年秋季年会について福田年会開催地理事より口頭で報告があり、会場である岡山理科大学の学長より、開催予定日時において大学を会場として使用する旨に許可がおりたとの報告があった。

また、高田庶務理事より2009年秋季の年会会場の候補としてあがっていた石垣島について、年会実行委員会で開催地としての条件を満たしているかについて議論した結果、会場間の距離が大きい、旅費負担が大きくて人が集まりにくいなどの問題点があり、開催地としての条件を満たしていないという結論に達したため、国立天文台VERA観測所の本間さんを通して石垣島にはお断りした旨報告があった。2009年秋季年会の開催地については候補探しをやり直さねばならず、候補地等の推薦についてあわせて依頼があった。

(2) 天文月報のバックナンバーの公開について

和田月報理事より、天文月報のバックナンバーのWEBでの公開について、作業は順調に進んでおり、来年度も引き続き行っていくことが報告された。

(3) 学会ロゴの応募状況について

北本理事より現在公募中の学会ロゴに対する応募状況について口頭で説明があった。既に50を超える応募があり、今後あまり大きく宣伝しなくても大丈夫ではないかとのことである。審査過程について質問があり、理事長、副理事長、デザインの専門家である岩崎氏による審査が行われることがあわせて報告された。

議 題

1. 新入会員の承認

資料2に基づいて新入会員の紹介があり了承された。またあわせて退会者についても報告があった。

2. 百周年記念年会について

柴橋副理事長より資料3に基づいて説明があった。100周年祝賀会については、まず3月23日(日)午後3時より講演会、その後午後5時より祝賀会を行う予定。講演会場は一橋記念講堂(収容500人)、祝賀会場は学士会館(収容200人)を予定している。同日に記者発表も学士会館で行う予定であり、祝賀会の前に行われることがあわせて報告された。記念講演については尾崎洋二氏に要請し受諾頂いたことも報告された。

北本会計理事より、祝賀会において参加者に配布予定の100周年記念切手について、切手シート等の作成については諸般の事情で先行きが不透明であり、シートにして配布することを明言することは今のところできない状況である旨報告があった。

あわせて行われる2008年春季年会については通常どおりの開催予定(総会、懇親会等も通常どおり)であり、会期中に記念の展示会を催したい旨報告があった。会場の確保等はすべて順調であることもあわせて報告された。

公開講演会については3月29日(土)に有楽町朝日ホール(収容638名)で行うことを予定している。会場は既に押さえているとのこと。なお、この公開講演会は天文教育委員会が担当となっているが、これは100周年であってしかも東京での開催という今回限りの特殊事情によるものであり、これ以外の年会で天文教育委員会が同様に公開講演会を担当するのは難しい旨、渡部天文教育理事よりコメントがあった。

学会100周年記念及び世界天文年記念の展示会開催を国立科学博物館と共催で開催することを検討していることがあわせて報告された。内容は望遠鏡400年記念の企画展示で博物館側担当者として洞口、西城の両氏があがっており、学会側の担当者を現在依頼中であるとの報告があった。

3. その他

(1) 第7回 EAMA (東アジア天文学会議) シンポジウムの共催団体について

高田庶務理事より EAMA の SOC 委員長である海部氏より提出された資料 4 に基づいて、第7回 EAMA シンポジウムについて説明があり、天文学会に共催の依頼が届いている旨が報告された。議論の結果、天文学会としては前向きに取り組むべき事項であるという認識を確認し、共催については承認した。なお、詳細についてまだ不明であるため、特に学会側に何らかの負担が求められる場合には相談をしてもらうことを EAMASOC に要請することをあわせて確認した。

(2) 2009 年世界天文年 (IYA) の準備について

高田庶務理事より海部 IAU-IYAWG 委員・日本代表より提出された資料 5 に基づいて 2009 年に行われる世界天文年についての説明があった。天文学会に対する要請としては、

- 1) 関連諸団体と協力して、天文学会が IYA の実行について中心的な役割を担うこと、
- 2) 日本の実行組織を早急に立ち上げることを日本学術会議 IAU 分科会と共同で呼びかけること
- 3) 日本天文学会に IYA に対応する WG を組織すること

の 3 点があげられていることが報告された。議論の結果、学会において前向きに考えるべき事項であり積極的には取り組むが、提出された資料だけでは内容がはっきりしない部分も多く、今後の調整も必要であるとの指摘がなされた。とりあえず天文教育委員会(具体的には委員長である渡部天文教育理事)をコンタクト先としてお願いし、詳細が調整された後で別途 WG を立ち上げていくことが了承された。

(3) スペースシャトルの OFK について

渡部天文教育理事より資料 6 に基づいて説明があった。宇宙飛行士の土井隆雄さんが 2 月に再度超新星を発見し、天体発見賞の候補になることが考えられるが、土井さんよりシャトル搭乗時に各宇宙飛行士が Official Flight Kit (OFK) と称して 10 品ほどのその人にゆかりのあるところからの記念品を宇宙に持っていくことができるので、今度のフライトで OFK として学会ゆかりのものを持って行ってもらうことが提案された。土井さんの了解は既に得ており、学会 100 周年に花を添えるものでもあるの

で実現したいとのこと。理事会としては承認。現在は発見賞のメダルに特別に刻印がされたものなどを考えているが、今後具体的にどのようなものを持っていてもらうかは調整することとなった。

(4) PASJ の投稿料半額キャンペーンについて

堂谷 PASJ 理事より 2008 年度に投稿料半額キャンペーンを予定している旨報告があった。会計とよく相談しながら話を進めるということで了解された。

次回の日程は 6 月 30 日(土) 11 時～。場所は未定。
2007 年 4 月 18 日

議長 土佐 誠 ㊟
署名人 花岡庸一郎 ㊟
署名人 高田 唯史 ㊟

【評議員会議事録】

日時: 2007 年 3 月 29 日(木) 12:00~13:00

場所: 東海大学 14 号館 1 階会議室

出席者: 安東, 家, 梅村, 海部, 大橋, 郷田, 佐藤, 柴田, 須藤, 谷口, 観山, 中川, 永田, 宮川, 山本, 渡部 以上 16 名

有効委任状提出者: 池内, 井上, 岡村 以上 3 名

他に理事会から土佐理事長, 柴橋・國枝副理事長, 花岡・高田・北本・田村・中本理事および東條事務長が出席した。

議事に先立ち議長に大橋氏, 署名人として梅村, 須藤両氏を選出した。

報告

1. 前回議事録の確認

資料 1 に基づいて前回の議事録の確認が行われ承認された。

2. 当年会について

中本年会理事より開催中の 2007 年春季年会の状況について口頭で説明があった。講演数は約 630, 登録参加者数は 2 日目午前中までで 720 名程。3 月 27 日に行われた記者発表については 9 社の参加があり, WEB や新聞紙面に記事として掲載された。

なお, 3 月 27 日当日のある新聞の夕刊に記者発表の内容が載ったことに対して, 別の報道機関より, 午後の記者発表が当日の夕刊に記事として間に合うはずがなく, 報道機関の常識には反しているの今後の対策を明確に示して欲しい旨クレームがあったことが紹介された。議論の中で報道メディアには現在色々なものがあり, 常識というものも時代とともに変遷していることも考えて, 各メディアに関して

細かく規則を決めてリリースの整理をするべきであろうとの意見が出された。秋季年会からの適用を考えて、至急対応を行っていく旨了承された。

3. その他

なし。

議 題

1. 100周年記念年会について

柴橋副理事長より資料2に基づいて100周年記念年会について説明があった。

3月23日に記念講演会と祝賀会を催す予定。記念講演会は一橋記念講堂、祝賀会は学士会館を予定しており既に会場等は押さえてあり、記念講演については尾崎洋二氏に依頼して承諾を既に得ていることもあわせて報告された。

年会については3月24-27日にオリンピック記念青少年総合センターで行い、総会、懇親会等も通常どおり行う予定であり、会期中に記念展示会も催すことを予定している旨、あわせて報告された。会場等の予約はすべて終わっており、詳細な予算見積もりも提示された。公開講演会については有楽町朝日ホールを会場にして3月29日に行う予定であること、担当は渡部氏を中心とした学会の天文教育委員会であることが報告された。

展示会については大きなものや歴史的な書物などを展示できたら良いのではないかという話が出ており、国立科学博物館との協力を考えていること、博物館側での企画の提出等の期限が迫ってきていることもあり、至急対応をしていく必要があることが報告された。学会側の担当者については現在検討中であることもあわせて報告された。展示会について現在の案では世界天文年との関連性なども念頭に入っているが、この展示会の位置づけをもっと明確にして時期ややり方も含めてフレキシブルに対応するべきであるとの意見が出され、今後、注意深く状況を見ながら検討を進めていく旨了解された。

祝賀会について、想定している人数が200人ほどであるが、人があふれた場合の対応は考えているのかとの質問があり、やむをえぬ場合には立食形式に変更することも考えるが、座席は一定数は用意する必要のあるとの認識が示された。人数の想定も含め、今後も検討を進める。

2. その他

(1) 第7回EAMA(東アジア天文学会議)シンポジウムについて

資料3に基づいて海部氏より報告があった。2007年10月9-12日に開催予定であること、準備は順調に進んでいること、翌年に世界天文年

を控えていることもあり、東アジア全体に対する教育普及にも力を入れることでさらなる広がりを目指すことを考えている旨報告された。また、春季年会中に第1回準備会を行ったこともあわせて報告された。天文学会が共催することに関しては理事会でも了承されており、積極的に進めることが了承された。

(2) 世界天文年について

資料4に基づいて、海部氏より世界天文年についての各国の動きや日本の取り組みの現状などが報告された。3月に行われた世界天文年会議の報告の中で、参加国は多いが米英加などをはじめとする欧米の動きが速くしっかりしている点、それに比べて日本をはじめアジアの取り組みが遅れており早急な対応が必要である点が指摘された。日本での取り組みとしては、既に国立天文台やJAXAが共催として参加しており、天文学会としても当面天文教育委員会をコンタクト先として、今後学会内にワーキンググループを立ち上げていくことが理事会でも承認されている点が報告された。日本の動き全体を活性化していく上で、天文学会をあげての組織作りが重要であるという認識が確認され、今後世界天文年日本委員会の立ち上げが急務であることが指摘された。この組織が全体の統括責任を負うわけであるが、寄付金等を集めたりする関係もあるので任意団体等として立ち上げてよいのかという質問があり、現状では天文財団を受け皿にすることを検討中であることが報告された。国立天文台やJAXAなどの人によるコアグループを早めに形成して早急に活動を活発化させることが了承され、天文学会としても積極的に取り組むことが了承された。また、世界物理年における日本での活動の反省も考慮しながら推進していくべきであるとの意見が出され、了承された。

(3) Asian-Pacific Journalの現状について

Asian-Pacific Journalの現状について質問があり、参加者の中で状況を一番知っていると言うことで梅村氏が回答した。現在、ももとのAsian-Pacific Journalとは別にインドと中国がそれぞれの国内天文学術雑誌を統合するという計画に韓国も加わるという話が進んでいること、日本としては動向を注視している段階であり、ジャーナルワーキンググループも解散ではなく休止中であることが紹介された。議論の中で日本として今後どうしていくのかを考える上

で動向の確認と報告が随時必要であろうということになり、ワーキンググループの再開など具体的な動きをするべきであろうとの意見が出され、今後検討していくことで了承された。

- (4) 学術会議等の最近の動きなどについて
海部氏より口頭で学術会議の最近の動きについて説明があった。若手研究者の育成を目的とした若手・人材育成検討委員会が設置され、今後の研究環境等のあり方などについて活発な議論を始めていること、また、理数教育に関して各学会が集まって連合会を作っているが、それに天文学会が参加していないことが報告された。後者については今後、学会の教育委員会と相談しながら連合会への参加や今後の活動について話を進めていくことが了承された。

今回は7月7日に開催予定で、場所についてはJAXAの丸の内オフィスなどを候補に調整し、後日連絡することで了承された。

2007年4月18日

議長 大橋隆哉 ㊟
署名人 梅村雅之 ㊟
署名人 須藤 靖 ㊟

【2007年度春季総会議事録】

日時：2007年3月29日（木）16:30～17:45
場所：東海大学11号館4階（H会場）

出席者の確認の結果、事前投票総数（会場参加者との重複は除く）は377名、会場参加は138名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。有効出席者総数は515名で、定足数（正会員総数1,648名の5分の1=330名）を満たしていることを確認した。

次に署名人として牧野淳一郎氏、松村雅文氏が選出された。

つづいて各賞の授与式が行われた。はじめに山岡天体発見賞選考委員長の司会のもと、天体発見賞、天体発見功労賞、天文功労賞が、以下の方々に授与された。天体発見賞 鈴木章司（欠席）、西村栄男、板垣公一（10件）の各氏

天体発見功労賞 山本 稔（欠席）、板垣公一の各氏
天文功労賞 長期的な業績として藤井 貢氏（欠席）、短期的な業績として成見博秋（欠席）・金井清高の両氏、および多胡昭彦（欠席）・櫻井幸夫の両氏
受賞者を代表して板垣公一氏がスピーチを行った。

次に、研究奨励賞、林 忠四郎賞および欧文研究報告論文賞が、以下の方々に授与された。

研究奨励賞 青木和光、秋山正幸、戸谷友則の各氏
林忠四郎賞 井田 茂氏

欧文研究報告論文賞 宮崎 聡氏他14名、牧島一夫氏他12名の各氏

議事の経過および結果

1. 花岡理事が資料に基づき、2006年度事業報告の説明を行った（第1号議案）。
2. 北本理事が資料に基づき、2006年度決算報告の説明を行い、また井上監事が監査報告について説明を行った（第2号議案）。
3. 第1号議案、第2号議案は各々賛成多数で承認された。

討議・報告等

海部宣男氏が、10月に開催予定の第7回EAMA（東アジア天文学会議）シンポジウムについて報告し、また、2009年世界天文年（IYA）の準備状況を報告するとともに会員の協力を呼びかけ、合わせて学術会議の状況についての報告を行った。

2007年4月18日

議長 土佐 誠 ㊟
署名人 牧野淳一郎 ㊟
署名人 松村 雅文 ㊟

日本天文学会 2007年春季年会報告

2007年春季年会は3月28日（水）から30日（金）の3日間、東海大学（神奈川県平塚市）にて口頭会場8、ポスター会場1を使って開催された。講演件数は口頭講演が376件、ポスター講演が202件あり、合計で628講演だった。これに加えポストデッドライン講演が5件あった。年会参加者は897名であり、最高記録となった。ジュニアセッション・天文教育フォーラムのみの参加者も280名あった。全体に、開催理事の比田井昌英氏のほか東海大学の皆さんのご尽力により、極めて順調に進行した。また、次の特別セッションが開かれた。

「ALMA 特別セッション：プロポーザル準備から観測データを手にするまで」

世話人：川辺良平（国立天文台）、大西和利（名古屋大学）、河野孝太郎（東京大学）

座長は次の42名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す（敬称略）。

	3月28日(水)		3月29日(木)		3月30日(金)	
	10:00-12:00	14:00-16:00	10:00-12:00	14:00-16:00	10:00-12:30	14:30-17:00
A	松本浩典 (京都大)	林田 清 (大阪大)	福江 純 (大阪教育大)	幸村孝由 (工学院大)	牧島一夫 (東京大/理研)	山岡和貴 (青山学院大)
B	河北秀世 (京都産業大)	柴田一成 (京都大)	草野完也 (JAMSTEC)	清水敏文 (ISAS/JAXA)	藤川行雄 (国立天文台)	一本 潔 (国立天文台)
C	尾崎正伸 (ISAS/JAXA)	大西利和 (名古屋大)	竹内 拓 (神戸大)	犬塚修一郎 (京都大)	富阪幸治 (国立天文台)	岡本美子 (茨城大)
D	国分紀秀 (ISAS/JAXA)	山内茂雄 (岩手大)	水野範和 (名古屋大)	釜谷秀幸 (京都大)	藤本正行 (北海道大)	橋本 修 (ぐんま天文台)
E	須佐 元 (立教大)	井上昭雄 (大阪産業大)	森 正夫 (専修大)	村山 卓 (東北大)	住 貴宏 (名古屋大)	中西康一郎 (国立天文台)
F	青木賢太郎 (国立天文台)	藤本龍一 (金沢大)	白田知史 (国立天文台)	吉澤正則 (国立天文台)	杉本正宏 (国立天文台)	村田泰宏 (ISAS/JAXA)
G	布施哲治 (国立天文台)	金田英宏 (ISAS/JAXA)	中川貴雄 (ISAS/JAXA)	根来 均 (日本大)	村上敏夫 (金沢大)	石田 学 (ISAS/JAXA)

〈記者会見〉

春季年会の前日、3月27日(火)14:00から、東海大学14号館にて行われた。土佐 誠理事長より挨拶と日本天文学会および各賞の簡単な紹介の後、林忠四郎賞受賞者の井田茂氏による自身の研究内容の紹介があり、さらに各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関9社の出席があった。これらの内容は、4月18日までに確認できたもので合計7紙に8本の記事として掲載された。

●研究発表

- (1) ブラックホールからのジェット噴出の瞬間をとらえた一宇宙ジェットの謎の解明へ大きなステップー

記者会見出席者：上田佳宏(京都大学)

関連する講演番号：J60a

- (2) おうし座に巨大惑星を発見—散開星団で初めての太陽系外惑星—

記者会見出席者：佐藤文衛(国立天文台)、井田 茂(東京工業大学)

関連する講演番号：PDL01, N09b, P02a

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが、3月28日(水)17:10-18:10、「どう教える新しい太陽系像—冥王星問題を発端に—」をテーマに開催された。これは、2006年8月のIAU総会において「惑星の定義」が決議されたことを受け、これを学校教育現場でどのようにとりあげるべきかについて、研究者、教育者、教科書編集者の立場から報告してもらうという趣旨で開催されたものである。まず研究者の立場から国立天文台の渡部潤一さんに、定義決定のいき

さつ、定義の解説とその問題点、日本の報道機関による取り上げ方などについて報告していただいた。冥王星についての報道は「降格」とか「リストラ」といった負のイメージがほとんどであり、太陽系の理解が深まっているという科学の進歩についてはほとんど触れられていないという指摘があった。次に学校教育の立場から巣鴨中学・高等学校の五島正光さんに、学校教育現場での対応を報告をいただいた。学校教育現場では冥王星が惑星でなくなった理由を説明し、太陽系外縁天体が数多く見つかった太陽系の理解がこれまでより大きく外側に広がったこと、冥王星は太陽系外縁天体の代表格であることを中心に話しているとのことであった。また、新しい教科書の変更内容を調べたところ、単に冥王星の軌道を消してしまったものや、太陽系外縁天体を書き入れその中に冥王星を残したものなど、対応は教科書会社によってまちまちであるとの報告もなされた。最後に、教科書編集者の立場として大日本図書株式会社の川戸秀夫さんに、教科書会社の対応の報告があった。教科書会社としては冥王星を惑星とする記述はすべて削除するが、大きな問題点として、その修正は2年後の授業でしか有効でないとの報告があった。参加者はおおよそ140名で、会場はほぼ満席状態であった。(沢 武文)

〈公開講演会〉

一般向けの公開講演会は、「ミクロとマクロの宇宙の不思議—地下にもぐって宇宙を観る—」というタイトルで、3月31日(土)14:00より東海大学湘南キャンパス11号館で開催した。土佐 誠理事長(東北大学教授)の挨拶の後、まず小柴昌俊氏(東京大学特別栄誉教授)の講演「ニュートリノ、ニュートリノそして

ニュートリノ」が行われた。ニュートリノに3種類あることにかけてタイトルだったが、素粒子の不思議な挙動から始めて、カムイオカンデのニュートリノ検出へつながる一連の話を、ユーモアあふれる語り口で分かりやすく語られた。休憩後には、川村静児氏（国立天文台助教授）の講演「アインシュタインが奏でる宇宙からのメロディー：重力波」の講演が行われた。重力波とは何かから始めて、その面白さについて、重力波を起こす超新星爆発などのいくつかの現象を可聴化し、その音を聞かせるという手法を交えながら、分かりやすくユーモラスな講演となった。それぞれの講演の後には活発な質問が出て、時間の関係で遮らざるを得ないほどであった。最後に、司会者でもある渡部潤一（国立天文台助教授）が、「冥王星をどうとらえるか—惑星の定義、最新情報—」と題する情報提供講演を行い、dwarf planetを準惑星とすることに決まった経緯などを紹介した。今回の入場者数は370名であった。（渡部潤一）

〈通常総会〉

「通常総会報告」(309頁)を参照。

〈懇親会〉

年会で一番楽しく重要なイベントである懇親会が、3月29日夕べに東海大学の学生食堂「コムスクエア」2階ホールで開催された。LOCは比田井、西嶋恭司、榊田淳子の3名。参加者は一般149名、学生107名、各賞受賞者招待29名で、合計285名。来賓として東海大学学長高野二朗氏にご臨席をいただいた。前の行事のために遅れ、7時頃に開会した。まず、地酒をご寄付頂いた地元の蔵元(株)吉川醸造様と(有)金井酒造店様の紹介と、地元特別メニューとしての大山名物とうふ料理や平塚漁港から直送の生しらす等の紹介があった。そして、土佐 誠理事長の挨拶があり、東海大学のキャンパスの感想や年会の盛会を祝う言葉とともに、今後の学会活動への協力の要請等が話された。次に来賓の高野二朗学長から、年会開催を歓迎するお言葉と乾杯のご発声をいただいた。この後は歓談に入り、皆さんに料理や地酒を堪能していただいたが、地酒はすぐなくなったようです。8時過ぎに年会の手伝いの学生諸君を紹介し、また、次期年会開催地岐阜大学の高羽 浩氏より歓迎の言葉をいただいた。中締めを行い、8時半頃閉会となった。飲み物は飲み放題でしたが、料理はほぼ完全に食べ尽くされ、片付け時に小海老のてんぷらが3本ほど残っていただけで、シェフは大喜びだったでしょう。皆様、ご満足いただけましたでしょうか。（比田井昌英）

〈保育室〉

保育室は、東海大学湘南キャンパス内の松前会館

2F「富士見」の間を使用した。4家族、子供6人の利用があった。保育者の派遣は株式会社ファミリー・サポートに依頼し、年会実行委員側は保育室担当が対応した。準備にあたっては、東海大学の比田井昌英氏ならび同学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。（泉浦秀行、岡 朋治）

〈特別セッション報告〉

「ALMA 特別セッション：プロポーザル準備から観測データを手にするまで」

ALMA 特別セッションは、年會初日3月28日の夕刻、16:05から1時間、D会場にて行われた。約200名の参加を得て、会場は立ち見多数の満員となった。ALMA-Jプロジェクト・サイエンティストの川辺良平氏（国立天文台教授）による挨拶の後、ALMAプロジェクト・マネージャーのTony Beaseley氏（ALMA合同オフィス；JAO）による、ALMA建設進捗に関する詳しい報告があった。ALMAのシステムを用いた初フリンジの検出成功という最新のホットニュースも含め、着々と進む建設の状況は非常に印象的であった。続いて、東アジアALMA科学諮問委員会(EASAC)委員長の山本 智氏（東京大学教授）から、ALMAにおけるプロポーザル審査の枠組みについて、詳しい説明があった。従来の方針（各「地域」がそれぞれプログラム審査の委員会を持つ）から変更があり、単一のプログラム審査委員会がすべてのプロポーザルの順番づけを行う方針となったこと、一方で、各地域のサイエンスの「特色」を反映させるための仕組みもあわせて設けたこと、などが紹介された。最後に活発な質疑を行って終了した。（河野孝太郎）

〈ジュニアセッション〉

第9回のジュニアセッションを、天文教育普及研究会と高校生天体観測ネットワークの共催、東海大学、神奈川県教育委員会、秦野市教育委員会、平塚市教育委員会、伊勢原市教育委員会、国立天文台天文情報センター、JAXA宇宙教育センター、日本惑星協会の後援で開催した。口頭発表38件とポスターのみ発表2件があり、合計40件の発表があった。また、すべての口頭発表はポスターでも発表がなされた。発表内容は多岐にわたっており、7つのセッション（流星・小惑星、惑星、太陽面通過、太陽、恒星、銀河、環境・観測装置・人工天体）に分けて発表がなされた。口頭発表は、28日の午前（10:30~12:15）および午後（14:00~16:00）に行われ、ライブ！ユニバースと東京大学情報基盤センターご協力により、インターネットで中継された。口頭発表のセッションでは、参加者が320名ほどあった。口頭セッションの司会は、渡部潤一氏、栗野諭美氏、比田井昌英氏、鷹 宏道氏、半田

利弘氏、鈴木文二氏にお願いした。ポスターセッションは、13時～14時と16時～17時の2回行った。なお、ポスターは会期を通して掲示された。特別講演としては、国立天文台の渡部潤一氏によって「惑星の定義—冥王星の運命は?—」という講演が行われた。開催地のスタッフの方々には多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。

(吉川 真)

(年会実行委員長: 中本泰史)

編集委員会より

ASTRO-EXPRESS 復活!

みなさん既にお気づきのことと思いますが、先月号から、“ASTRO-EXPRESS”というカテゴリの記事が登場しました。古い読者の方のご記憶かもしれませんが、これは、およそ10年くらい前まで天文月報に掲載されていた、「査読論文の速報」です。このたび、天文月報100巻を記念いたしまして、復活させました。皆さんの論文が査読雑誌に掲載されましたら、ぜひその内容をASTRO-EXPRESSとしてご投稿ください。原稿のテンプレートは月報ホームページ <http://www.asj.or.jp/geppou/> からダウンロードできます。皆さんの仕事の宣伝におおいに利用していただければ幸いです。

なお、査読雑誌はPASJに限りませんが、掲載の順番等は、PASJの論文を優先させます。

和田桂一(天文月報編集長)

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード vol98 の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

和田桂一(編集長), 浅井 歩, 今西昌俊, 衣笠健三, 齋藤正雄, 寺田幸功, 戸谷友則, 三好 真, 矢野太平, 吉田直紀
平成19年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2007 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)